生 涯 教 育 研 修 活 動 報 告 書

一般　検査研究班

1　実施日時：　令和 3 年 11 月　9 日　　19 時 00　分　～　20 時 00　分

2　会　場　：　Web 開催　　点数：　専門　― 20 点

3　主　題　：　埼玉でもあります！！当院の寄生虫症例報告会

4　講　師　：　星　このみ（埼玉県済生会川口総合病院）
小関　紀之（獨協医科大学埼玉医療センター）
渡邉　裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

5　協　賛　：　なし

6　参加人数：会員　79　名　賛助会員　0　名　非会員　0　名

7　出席した研究班班員：藤村和夫　小関紀之　室谷明子　柿沼智史　佐々木菜緒
渡邉裕樹　小針奈穂美　中川禎己

8　研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、「埼玉でもあります！！当院の寄生虫症例報告会」をテーマに、寄生虫に纏わる 3 症例の講演があった。

1 症例目は、星氏よりマラリア原虫の検出事例についての講演であった。繰り返す発熱を主訴に、肝胆道系酵素や CRP の上昇、ヘモグロビン濃度の低下、身体所見では黄疸および肝脾腫を認めた患者において、末梢血塗抹標本からマラリア原虫の虫体（1 つの赤血球に複数の輪状体）が検出され、熱帯熱マラリアと診断された症例であった。末梢血塗抹標本でマラリア原虫を検索する上で重要なことは、原虫と類似して観察されるごみや血小板に注意することであり、ギムザ染色ではごみは青色に染まり、一方で原虫は紫色に染まることが肝要とのことであった。また、マラリアは早期治療が必要な疾患であるため、患者情報を収集のもと、熱帯熱マラリアの鑑別ないし除外が重要とのことであった。

2 症例目は、小関氏より回虫の検出事例についての講演であった。当症例では、海外渡航の頻度が高い患者から直接検出された（3 つの口唇が著明である）虫体が回虫と判定された事例であり、虫体鑑別以外の検査は実施されなかったものの、虫体の特徴や患者背景から確信的なものであった。また、選択する検査方法や幼虫寄生の有無によって検出率が左右されることや、他種も含めた虫卵の形態的鑑別の重要性について解説があった。各寄生

虫の虫卵および虫体の形態的特徴は認定一般検査技師試験においても頻出の分野であり、大変参考になる内容であった。

3 症例目は、渡邉氏より生体肝移植後の免疫抑制療法により糞線虫感染症を発症した事例についての講演であった。生体肝移植を実施した患者において免疫抑制が行われた際、血液培養、胆汁、腹水培養で細菌が検出されたと同時に好酸球数が増加し、患者の出生地からも寄生虫感染が疑われ、精査した結果、糞線虫に感染していることが判明した例であった。糞線虫の鑑別は遺伝子解析によって行われたが、ヒツジ寒天培地においてスウォーミングするはずのない細菌が遊走しているかのように認められたのは、コロニーの周囲を糞線虫が這ったためであることが示唆された。結果的に、当症例は糞線虫症に起因して細菌培養が陽性となったことが示唆され、免疫抑制状態における寄生虫感染症のリスクについて考えることができた。

公衆衛生の改善が顕著となってきた今日、本邦における寄生虫感染症例は減少傾向にあるが、世界的視野でみると寄生虫感染症はまだまだ残存している側面が垣間見える。寄生虫感染が疑われる事例においては、臨床側との情報共有を確実に行い、適切な検査法の選択とともに検査者の十分な知識を合わせることで、より確実な診断に寄与できると考えられた機会であった。

提出日　　2021 年 11 月 29 日

文責：柿沼　智史